

## 基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

### (1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①: 教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積しているか。

#### 【観点到係る状況】

学務部が管理する「教務情報事務システム」により、学生の成績、学生の履修登録状況、学籍管理、職員情報、シラバス、授業評価及び教員による授業点検・評価データなど大学全体の教務データを管理・蓄積している。個々の教員の教育活動データについては、「大学評価の実施に関する規則」(参照資料 9-1-①-ア)に基づき、教員の個人評価や部局の自己点検・評価に活用しており、また、「大学情報基礎データベースシステム管理規程」を定め(参照資料 9-1-①-イ)、教員報告様式等を通じて、個々の教員が行う授業改善、研究指導の実績を含めた教育活動データを収集・蓄積している。これらのデータは、大学教育委員会と高等教育開発センターが連携して、毎年度の「教育活動等調査報告書」(別添資料 9-1-①-1)として取りまとめている。

別添資料 9-1-①-1: 教育活動等調査報告書 (平成 19 年度版, 表紙・目次)

参照資料 9-1-①-ア: 国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則

(<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/kanri/hyokakisoku.htm>)

参照資料 9-1-①-イ: 国立大学法人佐賀大学大学情報基礎データベースシステム管理規程

(<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/somu/daigaku.johokiso.htm>)

#### 【分析結果とその根拠理由】

「教務情報事務システム」及び個々の教員からの教育活動報告等により、基礎データを収集・蓄積し、全学的な教育活動の全体状況を「教育活動等調査報告書」としてまとめており、教育の状況について、活動の実態を示すデータや資料を適切に収集し、蓄積している。

観点 9-1-②: 大学の構成員(教職員及び学生)の意見の聴取が行われており、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

#### 【観点到係る状況】

学生の意見聴取は、観点 7-1-②で記述した「どがんね、こがんよ、学生懇談会」、「学生なんでも相談窓口」、「学生モニター制度」、「オフィスアワー」、「チューター(担任)制度」(別添資料 9-1-②-1, 参照資料 9-1-②-ア～エ)等の継続的な取組や「授業改善学生会議」(参照資料 9-1-②-オ)等の企画を通じて直接意見を聴取するとともに、すべての授業科目を対象にした学生による授業評価(別添資料 9-1-②-2)や、在校生、卒業予定者を対象とした満足度、到達度、学習環境等に関するアンケート調査を実施している(別添資料 9-1-②-3～4)。

特に、学生による授業評価については、各部局ごとの評価結果の分析による検証、改善に向けた課題などを「授業評価・改善の実施に関する報告書」(参照資料 9-1-②-カ)として取りまとめ、教育改善に活かしている。また、「授業評価結果を用いた授業改善実施要領」を定め、授業評価の結果に基づき各授業担当教員が評価結果の検証

と改善目標を記載した授業点検・評価報告書を作成し、授業改善に活かしている（観点9-1-④参照）。

これらの意見、調査結果、評価結果は、観点2-2-②で記載した大学教育委員会、高等教育開発センター、各部局の教授会及び教務委員会等からなる「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」(別添資料 9-1-②-5)により検討・審議され、この過程で、教職員からの意見を反映して立案された改善策が各教育組織、教員によって実行されている。

具体的事例としては、下記(資料 9-1-②-A)のほか、各種アンケート調査を基にした、シラバスの改善、外国語科目履修方法の変更、全学部の学生を対象とするネイティブ英語教員による英語教育の実施、他学部の専門科目を教養教育の主題科目として履修できる学内開放科目制度の導入、カリキュラムの改善、などが挙げられる(資料 9-1-②-B, 別添資料 9-1-②-6)。

資料 9-1-②-A： 学生の意見を教育の質の向上に結びつけた事例 (例示)

どがんね、こがんよ学生懇談会の学生意見	意見を基にした改善事例
図書館(本庄地区)の休業期間中の平日の閉館時間が午後5時30分になっているが、延ばして欲しい。(第5回, 平成17年12月) 図書館の閉館時間を20時から22時にしてほしい。(第8回, 平成19年11月)	図書館(本庄地区)において、平成18年4月1日から平成19年10月25日にかけて試行を行い、平成20年10月26日に休業期の閉館時間を授業期と同一の20時までで延長するとともに、通年の土日祝日の閉館時間を10時から19時に変更することを決定した。 図書館(本庄地区)において、平成20年1月8日から2月7日、4月14日から7月31日にかけて試行を行い、平成20年12月26日に前・後学期定期試験開始日の1週間前から最終日までの閉館時間を21時までで延長することを決定した。
図書館の新着本が少ない。もっと本を買ってほしい。(第6回, 平成18年12月)	オリエンテーション等での学生希望図書購入のアピールを強化することなどにより、平成19年度には、学生からの希望による購入数を前年度比で100冊近く増やした。また、学生選書委員が書店で選書する選書ツアーなどの実施により、学生のニーズを積極的に蔵書構築に反映する体制を整えた。
文系の文化教育学部や経済学部の建物も老朽化が目立つので建て直すなど整備してほしい。(第6回, 平成18年12月)	平成20年度の教養教育運営機構1号館の改修に続いて、教養教育運営機構2号館の外壁改修、文化教育学部棟及び経済学部棟の改修工事を進めている。
学生の居場所がない。自習室等がないので、整備して欲しい。(第5回, 平成17年12月) リフレッシュスペースを文科系の学部にも作ってほしい。(第8回, 平成19年11月)	平成18年度以降、理工学部、農学部に自己学習スペースを増設し、改修した教養教育運営機構1号館に、コミュニケーションスペースを設置した。
教養教育の主題科目は、抽選制度などのため受たい科目が受講できない場合がある。eラーニングなどインターネット授業を充実して、希望すれば受講できる授業を増やしてほしい。学生が取りたい授業が取れるようにしてほしい。(第8回, 平成19年11月)	eラーニング授業を増設するとともに、平成20年から、インターネットを利用した遠隔授業システムを稼働し、平成21年度前期教養教育科目で9科目開講している。
社会の現状として障がい者に対して理解がない、教養教育に障がい者に対する教育を取り入れてほしい。(第8回, 平成19年11月)	平成20年度に、教養教育科目「社会生活行動支援概論」をインターネット遠隔授業により両キャンパスで開講するとともに、平成21年度から教育改革事業「障がい者の就労支援に関する高等教育カリキュラムの開発—障がい者就労支援コーディネーター養成—」により、体系化した教育プログラムを提供することになった。
就職活動について、本学の学生は意識が低いように思う。就職活動を終えた学生の情報を、就職活動を始める学生に伝えたい。(第8回, 平成19年11月)	平成20年度に、就職ガイダンスで、内定を得た学生による就職活動体験の事例紹介を行ったり、広報誌「かちがらす」で同様の特集を組むなど、意見を反映した取組を推進した。

(出典：事務局資料)

## 資料 9-1-②-B: 多角的なアンケート調査の実施と活用状況

調査の名称	対象	実施年度	活用した会議
①学生による授業評価	各科目の受講生 (平成 18 年度から全授業科目)	平成 12 年度 ～現在	平成 18 年度第 6 回大学教育委員会 F D 専門委員会など
②卒業直前アンケート	医学部 6 年生	平成 16 年度 ～現在	平成 17 年 1 月 12 日教育委員会 (医学部)
③企業アンケート (全学)	全学	平成 17 年度	平成 18 年度第 2 回就職委員会
④学生生活実態調査	全学	平成 17 年度 (4 年毎に実施)	平成 18 年度第 8 回学生委員会
⑤学生対象アンケート	学部 3 年生 (医学部を除く)	平成 18 年度 ～現在	平成 19 年度第 5 回大学教育委員会など
⑥教員対象アンケート	専任教員	平成 18 年度	平成 18 年度第 8 回大学教育委員会など
⑦共通アンケート調査 (卒業・修了予定者対象)	卒業・修了予定者	平成 18 年度 ～現在	平成 19 年度第 2 回大学教育委員会
⑧入学者の進路選択に関する アンケート	入学予定者 (学部 1 年生)	平成 18 年度 ～現在	平成 19 年度第 1 回学生支援室連絡会議
⑨佐賀県小・中・高等学校対象アンケート	卒業生を含む佐賀県内の 現職教員	平成 18・19 年度	平成 19 年度第 6 回文化教育学部就職委員会 など

(出典：中期目標の達成状況報告書(平成 20 年 6 月))

別添資料 9-1-②-1: チューター (担任) 制度ガイドブック (抜粋)  
 別添資料 9-1-②-2: 佐賀大学学生による授業評価実施要領  
 別添資料 9-1-②-3: 平成 20 年度佐賀大学学生対象アンケート報告書  
 別添資料 9-1-②-4: 平成 20 年度佐賀大学共通アンケート調査 (卒業・修了予定者対象) 報告書  
 別添資料 9-1-②-5: 学部・研究科の「現況調査表 (教育)」(観点 1-2 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制)  
 (参考: <http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/H1619/H1619hyouka.htm>)  
 別添資料 9-1-②-6: 中期目標の達成状況報告書 (5~12 ページ)  
 (参考: <http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/H1619/H1619hyouka.htm>)

---

参照資料 9-1-②-ア: どがんね, こがんよ, 学生懇談会 ウェブページ  
 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/gakuseiseikatu-kondankai.html>)  
 参照資料 9-1-②-イ: 学生なんでも相談窓口 ウェブページ (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/sodan.html>)  
 参照資料 9-1-②-ウ: 佐賀大学学生モニター制度実施要項 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/gakumu/monitor.htm>)  
 参照資料 9-1-②-エ: オフィスアワー ウェブページ (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/office.html>)  
 参照資料 9-1-②-オ: 高等教育開発センター「持って来んしゃい 授業改善案—授業改善学生会議報告書—」  
 (<http://www.crdhe.saga-u.ac.jp/files/kaizen-houkoku.pdf>)  
 参照資料 9-1-②-カ: 佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/hyoka.19.pdf>)

## 【分析結果とその根拠理由】

上記のように、学生懇談会など多様な取組により、学生から直接意見を聞くとともに、学生による授業評価など各種アンケート調査により多くの意見を収集し、それらを基に、大学教育委員会、高等教育開発センター及び各部局の教授会等からなる「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」により、教職員の意見を集約しながら改善策の検討・立案が成され、様々な改善事例に反映されている。これらのことから、大学の構成員(教職員及び学生)の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされている。

**観点 9-1-③：** 学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされているか。

**【観点に係る状況】**

就職先関係者からは、各部署の就職委員会等が中心となり、卒業（修了）生が身に付けた知識、技術、外国語能力、適応性など、教育の成果に関する意見をアンケートや懇談会により聴取・収集し（別添資料 9-1-③-1）、関連委員会等での検討を踏まえて（資料 9-1-②-B【前掲】）、前述の「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」における改善策の検討・立案に活用している。アンケートの結果から、英語力や就職に結びつく資格・技能等の要望が抽出され、専門英語科目の充実（別添資料 9-1-③-2）や平成 19 年度キャリアセンターの設置及びキャリア教育の充実（別添資料 9-1-③-3）に反映されている。

また、学生の保護者・後援会からの要望を踏まえ、平成 20 年度から学生の成績を保護者に郵送し、学習指導を徹底する取組（医学部）や卒業生・同窓会の意見を踏まえた構内美化による学習環境整備の取組（本庄キャンパス）など、学外関係者の意見を活かしている。

別添資料 9-1-③-1：学部・研究科の現況調査表（教育）（観点 5-2 関係者からの評価）

（参考：<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/H1619/H1619hyouka.htm>）

別添資料 9-1-③-2：ネイティブ・インストラクターによる専門科目のシラバス等（例示）

別添資料 9-1-③-3：キャリア教育の実施状況

**【分析結果とその根拠理由】**

上記のように、卒業（修了）生の就職先関係者からの意見聴取とともに、同窓会、後援会等との意見交換を継続的に行っており、これらの意見をカリキュラムの充実等に結び付けるなど、具体的に活用している。これらのことから、学外関係者の意見が、教育の質の向上、改善に向けて具体的かつ継続的に適切な形で活かされている。

**観点 9-1-④：** 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。

**【観点に係る状況】**

学士・大学院課程の全ての授業科目を対象として学生による授業評価を実施し（参照資料 9-1-④-1, 別添資料 9-1-②-3【前掲】）、個々の担当教員は、「授業評価結果を用いた授業改善実施要領」（別添資料 9-1-④-1）に則り、授業評価の結果に基づいて自己点検・評価を行い、授業の優れた点及び改善を要する点、次年度の授業改善目標を授業点検・評価報告書に記載し、「教務情報事務システム」上で公開している（資料 9-1-④-A）。各教員は、個々の授業改善目標に向かって、授業内容、授業方法、教材、教授技術等の改善を図り、その取組内容を教員報告様式等により、教育活動実績として提出し（資料 9-1-④-B）、各部署の自己点検・評価、教員の個人評価等の資料として活用する仕組みにより、継続的改善に取り組んでいる。また、これによる授業改善例は、毎年度の「教育活動等調査報告書」に取りまとめ（別添資料 9-1-①-1【前掲】）、各教員が授業改善を進めていく際の取組の参考としても活用されている。

## 資料9-1-④-A：学生による授業評価の結果に基づいた授業点検・評価報告書（例示）

氏名	
科目名	
クラス名	専門科目
開講年度	2008

**授業の優れた点及び改善を要する点**

**【優れた点】**

1. A04「この授業の学習目標を把握している」は4.57、A05「この授業の成績評価基準を把握している」は4.86と全体平均を大幅に上回っている。この理由は、平成19年度と同様、シラバスに詳細な成績評価基準を記載し、授業の初回のオリエンテーションで説明を行った点にあると考えられる。これが正しければ、A04やA05は、改善の努力が表れやすい事項を尋ねた質問項目だということになる。

2. B05「シラバスは学習する上で役に立っている」及びB06「授業内容はシラバスに沿っている」がいずれも4.57と、全体平均を大きく上回っている。この理由は、オンラインシラバスに記載した授業計画に即して授業を進めたこと、シラバスを毎回の講義で配布するとともに、各自の研究等に役立てられるよう、シラバスに学問領域別の参考文献を記載したこと等が考えられる。これらの項目も、改善の努力が反映されやすい可能性がある。

3. D01「この授業を通して満足が得られた」は、平成19年度の4.29から4.86へと改善された（この上昇分は、受講生のパーソナリティによるところが大きいかもしれない）。

**【改善を要する点】**

1. B03「黒板・ホワイトボード、スライド等の使い方が効果的である」については、平成19年度の3.33から4.00へと改善されたが、講師としては改善の努力が足りないと感じている。

※全角1,200文字まで

**次年度の授業改善目標**

1. 【改善を要する点】への対処として、ホワイトボードでの図解の仕方が受講生にとってわかりやすいものになるよう、もう少し教材の提示方法を中心に工夫してみる。

※全角1,200文字まで

**公開区分**

公開  非公開

（出典：教務情報事務システム「授業点検・評価」（ログイン [http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live\\_campus\\_001.html](http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/live_campus_001.html)）

【学内限定：訪問調査時に開示】

## 資料 9-1-④-B: 授業評価結果を教育の質の向上に結びつけた事例 (教養教育運営機構: 例示)

科目名	開講部会	内容
言葉の成り立ちと構造	第1部会	内容が難しいというコメントがあったので、いくつか飛ばした。黒板とプロジェクターの使い方を工夫した。
ヨーロッパ中世史	第2部会	「質問への対応」の項目について、前回(平成18年度)は全体平均を下回り、評点も3以下であったことから、今回は授業冒頭に質問票を配布して終了後に回収し、次回授業で質問に回答するという形式を採用した。その結果、同項目の評点が4を越えた。
現代の流通	第3部会	前回の進行速度が速いという指摘があったので進行速度を緩やかにした。
食生活と衛生	第4部会	前回の講義時には、満足度が学部平均、全体平均とほぼ同じ値を示した。そこで、文科系学生にも興味を持てるような身近な内容を取り入れるなどの工夫をしたところ、満足度が学部平均、全体平均を大きく上回る3.97へと上昇した。
実験生物学	第5部会	前回の評価結果に基づき、室内実験だけでなく野外観察を入れるようにし、なるべく地域の身近な動植物を使ったテーマを扱うようにした。その結果、良好な満足度が得られた。
医療エレクトロニクスのはなし	第6部会	前回の評価結果をもとに、説明資料ができるだけ見やすく、かつ、より理解しやすくなるように資料の改善を行った。
進学・就職の地域間移動に見る佐賀	第7部会	平成19年度の学生による授業評価結果に基づく平成20年度授業改善計画により、調査の実施、発表会に至るまでの手順をわかりやすい形でスライド資料にまとめ、配布・説明を行った。
ドイツ語 IIa, IIb	第8部会	年々、学生からは授業のスピードを落とす要求が高まっている。そのような学習速度の遅い学生たちに対する質の高い授業内容を工夫し、習熟度を上げることができた。
スポーツ実習	第9部会	黒板の利用に関しての得点が低く、体育館の特性で仕方がない面もあるため、移動式の黒板とプリント配布で対応した。
情報基礎演習 I	第10部会	授業評価アンケートの結果をもとに次年度に向けた改善点を明らかにした。(予習、シラバス)

(出典:平成20年度教員報告様式データ)

別添資料 9-1-④-1: 佐賀大学学生による授業評価結果を用いた授業改善実施要領

参照資料 9-1-④-A: 「学生による授業評価」の実施に関する報告書 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/hyoka.html>)

## 【分析結果とその根拠理由】

全ての授業科目を対象として授業評価を実施し、評価結果が各担当教員にフィードバックされ、担当教員は自己点検・評価と改善目標の提示を行い、授業改善に取り組み、その改善内容を毎年度報告・公開するサイクルが構築されており、個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っている。

観点 9-2-①: ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

## 【観点に係る状況】

大学教育委員会のFD(ファカルティ・ディベロップメント)専門委員会及び高等教育開発センターが連携し、「佐賀大学FD・SDフォーラム」、新任教員研修(全学)、FD講演会・講習会(各部局)等のFD活動を実施

している（別添資料 9-2-①-1）。大学教育委員会FD専門委員会は、教養教育運営機構を含めた各部局のFDに関連する委員会の長から構成され、「佐賀大学FD・SDフォーラム」を企画し、これを受けて高等教育開発センターは、平成19年度はICTを活用した授業改善をテーマとして、3回のフォーラムを開催し、平成20年度は、学内の教員やスタッフに、学習管理システム（LMS）に対する理解を深めることや、学士力や高大接続の諸問題について理解を深めることを目的に、フォーラムを開催した。各部局においても、各FD委員会が、各部局に応じて講演会・研修会、公開授業等のFD企画を立案、実施しており、多くの改善事例があがっている（資料9-2-①-A～D、参照資料9-2-①-7）。

資料9-2-①-A： 各部局におけるFD活動の実施状況（平成16～20年度）

開催部局	開催回数	講演会等の主なテーマ
高等教育開発センター	14回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前教育、初年度教育におけるリメディアル教材の利用</li> <li>・大学連携eラーニングシステムTIES</li> <li>・学生による授業評価アンケートを利用した授業改善</li> <li>・教育の原理と問題解決型学習</li> <li>・GPA導入のメリット・デメリット</li> <li>・学習管理システム（LMS）</li> <li>・学士力や高大接続の諸問題（教養教育運営機構が協賛）</li> </ul>
教養教育運営機構	5回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレースメントテストからみた大学生の基礎学力の現状と経年変化</li> <li>・長崎大学のカリキュラム改革</li> <li>・初年次教育のあり方について</li> </ul>
文化教育学部・教育学研究科	10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習、そして就職初期に役立つ講義とは？</li> <li>・e-learningの紹介とPowerPointの活用方法</li> <li>・学生の立場から考える—経験的の大学教育論—</li> <li>・公開授業を踏まえたコミュニケーション論</li> </ul>
経済学部・経済学研究科	8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人院生の指導法について</li> <li>・学力について、大学入門科目について考える</li> <li>・授業評価—活用策と改善策—</li> <li>・チューター制度</li> <li>・演習における卒業レポートの指導</li> <li>・大学院：総合セミナーの課題</li> </ul>
医学部・医学系研究科	19回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接セミナー</li> <li>・新PBLカリキュラムの構築に向けて</li> <li>・上手なプレゼンテーションの仕方</li> <li>・医師、看護職者キャリア形成教育の構築について</li> <li>・がんプロフェッショナル要請プラン特別講演会</li> </ul>
理工学部・工学系研究科	9回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理工学部・工学系研究科FD企画</li> <li>・LMS（e-learning）デモに基づく講習会</li> <li>・e-Learningを用いた学生の自習補助システムの構築</li> <li>・大学生の数学力向上を目指した取り組みについて</li> <li>・JABEE受審報告</li> </ul>
農学部・農学研究科	7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生による授業評価アンケートの実施と結果について</li> <li>・学生と教員の人間関係</li> <li>・授業実践例と大学入門科目—問題発見・解決型を目指して—</li> <li>・環境教育EA21</li> <li>・楽しさを味わい確かな学力を身に付けた子どもの育成</li> </ul>

（出典：各部局FD活動報告書等より作成）

資料 9-2-①-B : 佐賀大学FD・SDフォーラムの周知用ポスター (例示)

# 平成21年度 第1回(第15回) 佐賀大学FD・SDフォーラム

**日時: 2009年5月21日(木) 16:10~17:40**  
**場所: 佐賀大学教養教育運営機構1号館1階会議室**

【演題】  
**「金沢大学におけるポータル利用  
による教育改善の取り組み」**

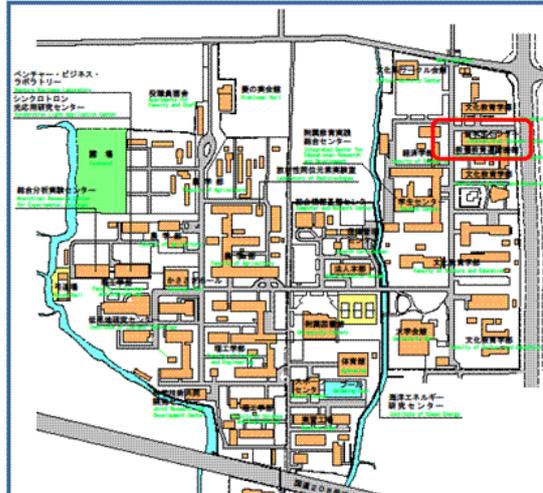
**講師: 堀井 祐介 氏**  
**(金沢大学大学教育開発・支援センター 教授)**

金沢大学では、学修支援、学生支援、教育支援のワンストップサービスとしてポータルサイト(アカンサスポータル)の整備を行っている。この活動は、平成16年度採択の現代GPをきっかけとした全学でのICT活用教育推進の一環である。活動主体となっているのは、学生部内に常置組織として設けられたFD・ICT教育推進室であり、学生、教職員のサポート、教材作成、システム開発が運用を担当している。アカンサスポータルは、学内各部局との連携の上に、学習管理システム、図書館システム等学内各種システムを接続する形で構築されている。当日は、アカンサスポータルおよびその運用、利用実態について紹介させていただく。

**主催: 佐賀大学高等教育開発センター**  
**協賛: 佐賀大学大学教育委員会、佐賀大学総合情報基盤センター、  
大学コンソーシアム佐賀**

**\*本学および大学コンソーシアム佐賀の教職員の方は、  
どなたでもご参加いただけます。**





**【交通案内】**  
 佐賀駅バスセンターからバスで約20分  
 「4番のりま」から市営バス11番 相応行 又は12番 東与賀行で「佐大前」下車  
 「4番のりま」から市営バス、63佐大前行で「佐大前」下車  
 佐賀駅からタクシーで約15分

(出典: 高等教育開発センター「FD・SD報告」(<http://www.crdhe.saga-u.ac.jp/fd-sd.html>))

資料 9-2-①-C : 公開授業等の開催状況 (平成 20 年度)

学部等	日時	場所	科目名
経済学部	11月12日(水) 12:50~14:20	経済学部・第5講義室	国際金融論 2
医学部	12月1日(月) 10:20~11:50	医学部看護学科棟講義室 (3)	国際保健看護論 (国際緊急援助活動と災害看護)
文化教育学部	12月19日(金) 12:50~14:20	教養教育運営機構大講義室	生徒指導論
理工学部	12月24日(水) 12:50~14:20	理工学部大学院棟202号室	反応工学
教養教育運営機構	1月14日(水) 10:20~11:50	理工学部大学院棟203号室	ゆらぎの数理(統計入門)
農学部	2月2日(月) 8:40~10:10	農学部大講義室	応用動物昆虫学

(出典: 公開授業開催案内メール)

## 資料 9-2-①-D: FDを教育の質の向上及び改善に結びつけた事例 (学部専門教育)

文化教育学部	
科目名	内容
社会福祉援助技術実習	2008年12月14日に行われた社会福祉援助技術実習担当教員講習会に参加し学んだことで、特に新カリキュラムで重視されることになった社会福祉士の倫理面に関する態度の獲得を目指すような講義とノートに関するフィードバックを行った。
理科講義および実験	FD講演会を通じて、学生への配慮について多くを学んだ。
経済学部	
科目名	内容
演習 (2年)	経済学部FDで得られた他のゼミナールでの試みを参考にし、学生に自主的に学習・発表ができるように働きかけた。
演習 3年	経済学部FDで得られた他のゼミナールでの試みを参考にし、学生に自主的に学習・発表ができるように働きかけた。
医学部	
科目名	内容
臨床入門(OSCE)	FDで評価に関する標準化を行い、共通の視点での評価を行った。
助産実習	「手の効用」「フィジカルアセスメント」の内容を参考にしながら受け持ち事例の助産過程の展開を通じて実践を通じて指導した。
医療人キャリアデザイン	第16回医学・看護学教育ワークショップ「医師、看護職者キャリア形成教育の構築について」の成果として、平成21年度から教養教育科目として新たなキャリア教育科目が開設された。
理工学部	
科目名	内容
力学C	一昨年度の理工学部FD企画「e-Learning講習会」で得た知識を基に、学生に自主学習させるための問題を多数掲載したサイトを構築し、実際に学生の基礎学力が向上した。
ソフトウェア工学	Moodleを用いて講義HPを運営し、各種のコンテンツ提供、レポートの回収、評価結果のフィードバック等を行った。
農学部	
科目名	内容
現代環境学	学生主体の授業が主流となるであろうとのFDの指摘を受け、学生の発表を主とし、現地見学等を含むシラバスとした。その結果、学生のテーマ(環境問題)に関する関心が高くなった。
環境化学	前回の評価結果に基づき、身近な題材を提供し、ミニレポートでの質問に応じた。その結果、良好な満足度が得られた。

(出典：平成20年度教員報告様式データより作成)

別添資料 9-2-①-1: 大学教育委員会FD専門委員会 FD活動報告書 (大学教育委員会報告資料) (平成20年度: 抜粋)

参照資料 9-2-①-7: 平成20年度第16回佐賀大学医学部 医学・看護学教育ワークショップ報告書「あとがき」  
(<http://www.med.saga-u.ac.jp/Workshop/910-01Workshop16.pdf>)

## 【分析結果とその根拠理由】

大学教育委員会のFD専門委員会及び各部局のFD委員会が、全学的なFDと部局単位でのFD企画を行い、講演会・研修会、公開授業など多様な方法でFD活動を実施しており、それを基に、カリキュラム改善や個々

の教員の授業改善等に役立てている。これらのことから、FDが適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

**観点 9-2-②：** 教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

**【観点に係る状況】**

優秀な大学院学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、学部教育におけるきめ細かい指導の実現や大学院学生が将来教員・研究者になるためのトレーニングの機会の提供を図るため、「ティーチング・アシスタント実施要項」により、ティーチング・アシスタント(TA)制度を実施している。TAの資質向上を図るため、大学教育委員会FD専門委員会において「ティーチング・アシスタント運用要領」(資料 9-2-②-A)を定め、TAを採用する授業の担当教員は、この運用要領に基づき、事前説明会の開催や演習補助の方法等に関する指導等の研修を行っている(資料 9-2-②-B, 参照資料 9-2-②-ア) (観点 5-6-②参照)。

また、事務系・教務系・技術系職員については、国立大学教養教育実施組織会議及び事務連絡協議会や、日本学生支援機構開催の各種会議・研修、技術研修会、セミナー、学会等に派遣し、教育支援者や教育補助者としての質の向上を図っている(別添資料 9-2-②-1)。

**資料 9-2-②-A： ティーチング・アシスタント運用要領**

佐賀大学ティーチング・アシスタント運用要領

(趣旨)

第1条 この要領は、国立大学法人佐賀大学におけるティーチング・アシスタント制度の目的を踏まえたティーチング・アシスタントの円滑な運用に必要な事項を定めるものとする。

(研修の実施)

第2条 ティーチング・アシスタントに教育補助業務を行わせるに当たって、当該授業の担当教員(以下「担当教員」という)は、授業の教育効果を高めるとともに、ティーチング・アシスタントに対して教育活動の質の向上を図るための研修等を実施する。

(実施報告書)

第3条 担当教員は、ティーチング・アシスタントに教育補助業務を行わせた授業科目ごとに、次の各号に掲げる事項を個別実施報告書に記載し、学部及び学科等の教育組織(以下「教育組織」という。)に提出しなければならない。

(1) 事前に行った当該業務に関する研修内容

(2) 担当教員によるティーチング・アシスタントへの指導内容

(3) ティーチング・アシスタントから集約した活動内容

(4) 学生による授業評価等の結果から判断したティーチング・アシスタントの有効度

2 教育組織は担当教員から提出された実施報告書を集約し、教育組織別実施報告書を学部又は学科等の長に提出しなければならない。

(報告書の活用)

第4条 学部又は学科等の長は、前項に定める教育組織別実施報告書に基づき、必要に応じて教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策を講じるものとする。

附則

この要項は、平成20年4月1日から実施する。

## 資料9-2-②-B: TA事前研修(例示)

事前研修及び指導内容
<p>○情報基礎演習が他とはかなり異なる授業形態であること、つまり個々の受講者が自身で端末を操作し、コンピュータの仕組みや各種ソフトウェアの使用方法を学ぶ方式であることを説明した。</p> <p>○演習を円滑に進めるためにも、担当教員の講義や説明と並行して、受講生の端末操作を補助する必要があることを理解しておくよう指導した。</p> <p>○演習前には自分で課題を解いておき、間違いやすい箇所について事前に把握しておくことを指導した。</p> <p>○学生の質問にはすばやく答え、適切な指示を与える。端末の操作は受講生が行うことを原則とすること、実演してみせた場合は、もとの状態に戻した後受講生に操作させることを指導した。</p> <p>○1人の受講生に長時間説明することが無いように留意すること、受講生には平等に接すること、及び端末のトラブル等、自分では対処出来ない場合には、補助の教員にすみやかに連絡することを指導した。</p>

(出典：平成20年度前学期ティーチング・アシスタント(TA)実施報告書)

別添資料9-2-②-1：事務系・教務系・技術系職員の会議・研修会等の参加状況等

参照資料9-2-②-ア：ティーチング・アシスタント実施要項 (<http://www.saga-u.ac.jp/houmu/kisoku/jinji/teachg.htm>)

## 【分析結果とその根拠理由】

「ティーチング・アシスタント運用要領」に従い、事前説明会の開催、演習補助の方法等に関する指導など、教育補助者としてのTAトレーニングを実施している。また、事務系・教務系・技術系職員などを各種研修やセミナー等に派遣しており、これらの教育支援者や教育補助者に対し、教育活動の質の向上を図るための研修等、その資質の向上を図るための取組を適切に実施している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

- 自己点検・評価を教育の質の向上に結びつける仕組みとして、学生による授業評価や各種アンケート等による教育の状況を点検・評価するとともに、それらの結果を用いて授業改善計画を策定し、授業の改善に取り組むPDCAサイクルを全学的に運用している。これにより、授業の改善例が数多く報告されるようになっている点は、優れていると判断する。

### 【改善を要する点】

- 全学的なPDCAサイクルが軌道に乗り、成果が上がり始めているが、より効果的で、業務負担を軽減できるよう、引き続き整備を進めている必要がある。

## (3) 基準9の自己評価の概要

大学全体の教務データを学務部が管理・蓄積し、個々の教員の教育活動の実態を示すデータや資料を、大学評価規則に基づいて収集、蓄積し、個人評価や自己点検・評価に活用するとともに、教育活動の全体状況を「教育活動等調査報告書」としてまとめている。また、学生による授業評価や、在校生、卒業予定者を対象とした各種アンケート調査、「どがんね、こがんよ、学生懇談会」、「チューター（担任）制度」など多様な取組を通じて、学生からの意見を聴取し、さらに、就業先関係者を対象としたアンケートや同窓会との意見交換会等により、学外からも意見を収集し、それらを基に、関連委員会等により教職員の意見を集約しながら改善策の検討・立案がなされ、様々な教育の改善に結び付けている。

学生による授業評価については、全ての授業科目を対象として授業評価を実施し、評価結果が各担当教員にフィードバックされ、担当教員は自己点検・評価と改善目標の提示を行い、授業改善の取組を次年度の授業に活かし、その改善内容を毎年度報告・公表するサイクルが構築されており、個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っている。さらに「佐賀大学FD・SDフォーラム」、新任教員研修（全学）、FD講演会・講習会（各部局）等のFD活動を実施し、教育の質の向上や授業の改善に役立てている。また、ティーチング・アシスタント（TA）への事前説明会の開催、演習補助の方法等に関する指導や、事務系・教務系・技術系職員の各種研修、セミナー、学会等への派遣を行い、教育支援者及び教育補助者の資質の向上を図っている。